



Mon Nara



奈良日仏協会創立 25 周年記念

フランスの音楽と文化祭

Numéro spécial

Association Franco-Japonaise de Nara 奈良日仏協会

AOÛT. 2019 8 月

去る 6 月 22 日(土)、生駒市セイセイビル 1 階の文化ホールにおいて、一般のお客様を含め 184 名の参加のもと、奈良日仏協会創立 25 周年記念「フランスの音楽と文化祭」が行なわれました。会長はじめ、出演者や当日ご参加の皆さんから、数多くの感想をいただきました。当日の会場の写真とあわせて、ご覧ください。



「会員参加」で祝う 25 周年

2019 年、奈良日仏協会は創立 25 周年を迎えました。ここに至るまで協会を育てて下さった歴代の役員、会員の方々に深い謝意を表したいと思います。本年、記念行事として、音楽の演奏を中心に美術や文学との関連まで紹介する「音楽と文化祭」を開催することになりました。わずか 10 分未満の出番のために、打ち合わせ、リハーサル、本番と細心の準備をしていただいた演奏家の方々、そして「お話」と題した講演を担当された方々に厚くお礼申し上げます。構想から一年間の準備期間がありましたが、振り返ってみれば大事業でした。この間実に煩雑な事務作業を緻密に処理された杉谷事務局長、演奏会の企画・運営全般にわたっての頼もしい指導役であった藤村理事と会員の竹本さん、行事全般への気配りをされた浅井理事、会計担当として尽力された高松理事、その他さまざまな場面で協力していただいた役員、理事、会員、さらには会員の家族、友人の方々に至るまで、こうした謝辞のつねとしてすべての方々のお名前を記すことはとうてい不可能ですが、全会員とその関係者の方々、来場いただいた来賓、一般の方々に厚くお礼申し上げます。「会員参加」が今回の催しのキーワードでした。奈良日仏協会の総力をあげて取り組んだ企画であり、それぞれの会員の力量が十分に発揮されました。あらためてこの団体の高い能力を実感した次第です。これぞまさにフランス、その文化や芸術の本質が洗練された形で凝縮され、2時間半の至福の時を過ごしたあと、なごやかな懇親会、忘れられない記念行事になりました。(三野博司)

エネルギーの結集の成果

今回の「音楽と文化祭」はとても良かったですね。企画から運営と出演まで身内でここまで出来たことは素晴らしいことです。私も出演者の一人として、プロに交じっての出演に戸惑いがありましたが、終わってみればすべてよしです。三野会長と杉谷事務局長のご努力とそれを支える理事の皆さんには敬服しました。このたび、以前会長を拝命しておりました頃、創立 15 周年記念パーティー、日仏友好 150 周年記念シャンソンコンサート、リヨン少年合唱団の奈良公演をお手伝いしたことなどが頭に浮かび、とても大きなエネルギーが要ったことを思い出しました。今回の成果は見事なもので感服しました。パーティーでは古い仲間と旧交を温め、新しい方々とも懇親の輪を広げることが出来楽しく過ごさせていただきました。三重日仏協会の方とは私の同郷で共通の思い出があり、同窓会みたいに 2 次会で大いに盛り上がりました。(坂本成彦)



【L' Association Franco-Japonaise de Nara fête ses 25 ans ! Bravo!!】

奈良日仏協会 25 周年の大イベントがついに終わりました。皆様、お疲れ様でした。おおよそ一年前、25 周年記念行事が議題に上がり、議論の結果、会員自体が主体となって発信するという基本方針が決まりました。議論を重ねていく中で、やはりフランス音楽は欠かせない、文学も美術も避けては通れない、いや食も盛り込みたい。2 部構成、3 部構成、と発想が膨らんでいきました。記念の催しだから、できるだけ大勢でやりたい、でもそうすると時間的な難しさが生じるし、まとまりがなくなるのでは。二転三転の紆余曲折を経て、フランス音楽の演奏を軸にいろんな分野を絡ませるという案に落ち着いたのは、数か月経ってからだったのでしょうか。今だから言えることですが、あの頃、こんな難しい企画、果たして上手くいかしら、と内心不安でした。しかし、さすが三野会長、あの混沌とした状態から本番の形に見事に収斂させ、15 ステージを 2 時間半という時間にまとめ上げられました。こうした前代未聞の企画も緻密で周到的なマネージメントが伴わないと実現で

きません。杉谷事務局長との実には的確な連携プレーで数々の難問を解決していただきました。何しろ、オペラの初演にも匹敵するほどの今回の大事業。つつがなく終わられたのは、偏にステージを支えてくださった多くのスタッフの皆様、受付やパーティーをコントロールして下さったたくさんの会員、そのご家族、友人の皆さんのお力添えがあったからこそです。どこが欠けてもあの公演は成り立たなかったと思います。聴衆に一般のご参加が多かったことも奈良日仏協会の存在をアピールするいい機会になりました。パーティーでは浅井理事の和気あいあいとした雰囲気作りの中、当を得た司会で進行し、あちこちで楽しそうな会話が弾んでいました。自画自賛になるかもしれませんが、この見事なハーモニーこそ、奈良日仏協会の誇りであり、私もその一員であったことは長く良い思い出となって残ることでしょう。本当にありがとうございました。(藤村久美子)

優雅でアカデミックで不思議なフランス

音楽と文化祭が近づくにつれ、こんなに複雑な企画が本当にうまく運ぶのか、また第一部のトップが私達アマチュア合唱団で大丈夫なのかと私の中で不安が大きくなっていきました。しかし当日はそれらも杞憂に終わり、とても楽しく充実したひと時となりました。「大変優雅でアカデミックで不思議なフランスを味わった」との感想をいただきました。会長、事務局長、理事や出演者の皆様のお力に感服するばかりです。ありがとうございました。(喜多幸子)



バロック音楽

「フランスの音楽と文化祭」では満員の会場で演奏させて頂き、有難うございました。お蔭様で気持ち良く演奏する事が出来ました。豊かな響きのアカペラコーラスの直ぐ後でしたので、リコーダーとヴィオールのデュエットは少し貧弱に聴こえたかもしれません。しかしそんなに大きな会場ではありませんでしたので、生音でも充分皆様には届いていたと思います。当日のプロの中では唯一のバロック音楽でしたが、楽しんで頂けたとしたら幸いです。(坂本利文)

貴重な機会に感謝

6月22日の「フランスの音楽と文化祭」で、ノアンでのショパンとサンドの話ができたことは、私にとって大変嬉しいことでした。日頃ショパンに親しまれている方には、ノアンでのサンド一家との生活を知って頂き、できればノアンの館を訪れて頂きたいというのが、私が常々抱いていた希望だったからです。この催しを通じて、多くの曲に出会えたことにも感謝しております。最近ドビュッシーのピアノ曲を、熱心に聴いております。(高岡尚子)



演奏を終えて

今回、入会させて頂き間もないのですがショパンの演奏で出演させて頂きました。各分野の先生方が集結し、まさに総合芸術祭という盛り沢山のプログラム(まるでフレンチのフルコース!)でした。高岡先生のお話の後に演奏という貴重な体験をさせて頂き、私自身3年前に訪れたノアンの風景が思い出される気分でした。そして魅力溢れる素晴らしい先生方との出会いに多くのパワーや刺激を頂きました。改めてお仲間に加えて頂いた事に感謝申し上げます。今後ともよろしくお願ひ致します。(知念夕紀子)

至福の一時

共通の趣味を活かした団体、サークルいろいろあれど、奈良日仏協会のようなタレント集団は他に知らない。成功裏に終わった今回の25周年記念イベント、綺羅星のように輝き、繰り広げられた演目の数々はまさに圧巻。諸ジャンルのプロたちが、日仏文化交流への理解と遠大な理想を掲げ、垣根を超えて手を取り合った、奇跡の手弁当公演だったといえるだろう。ますますこの仲間たちが誇らしく思えた「至福の一時」だった。(南城守)



25周年を祝う会に参加して

この度は、25周年を祝う会に出演参加をさせて頂きまして、ありがとうございます。このような素敵な会に参加することができ、光栄に思っております。またソロ以外に大津(岩佐)さんとのデュオ演奏する機会も与えて頂き、楽しく有意義な時間となりました。会を開くにあたり、ご準備

などをして頂きました三野会長をはじめ皆様には、厚く厚く感謝をしております。これを機に益々 奈良日仏協会が発展なさります様、心よりお祈り申し上げます。(三澤知香)

フランスの音楽・文化のスペクタクル

創立 25 周年記念「フランスの音楽と文化祭」ではピアノ演奏で参加させていただきました。ご尽力下さった三野博司会長先生、理事の皆様方、お世話になりありがとうございました。私はフランスの音楽、美術、文学、語学、映画、全てが大好きです。今回フランスの文化・芸術のスペクトル総合芸術の一端を体感し、改めてその美しさ・奥深さ・力強さを実感致しました。オリヴィエ・ジャメ先生の詩の朗読は鬼気迫るものがあり感動致しました。更に研鑽し、フランス音楽への理解を極めてゆきたいと思います。益々の奈良日仏協会のご発展を祈っております。(三木康子)



コンサートづくりに参加できた喜び

この度は大変お世話になりました。皆様、お疲れ様でございました。紫陽花が咲く中、静かに清らかな合唱が始まり、ふと、新年が明けてすぐお声をかけて頂いた事を思い出しました。最初の企画打合せに参加させて頂き、このプログラムが無から有へと形作られてゆくのを垣間見させて頂き、メンバーの皆さんのエスプリのきいた、並々ならぬ情熱を感じました。この「フランスの音楽と文化祭」が仕上がる迄にどれ程の時間と知恵を絞って頂いた事かと思えます。そのご苦勞のおかげで、お客様達からは口を揃えて「と～っても



楽しかったあ」とのお言葉を頂きました。本当は客席で聴きたかった程の素晴らしいプログラムに参加させて頂いて、ありがとうございました。(岩佐直子)

「フランスの音楽と文化祭」に思う

この度は、奈良日仏協会創立 25 周年の特別行事に出演させていただき、誠にありがとうございます。25 周年という節目の催事に参加できた幸せを全身で感じると共に、企画立案から本番まで携われた皆様に感謝申し上げます。音楽、美術、朗読など多種多様なプログラムが「お話し」によって統一され、その内容はとても興味深いものでした。そして最後にお祭り気分を演出して終幕。忘れ難い一日となりました。(水谷雅男)



奈良日仏協会 25 周年記念日の何とすばらしい旅！ Quel beau voyage, ce vingt-cinquième anniversaire de notre AFJN !



2019 年 6 月 22 日、生駒コミュニティセンターで行われた奈良日仏協会 25 周年記念の会は、音楽、詩などフランス文化の回顧的融合が図られ、とても魅力に溢れていました。ルネサンス音楽からシャンソンにいたるまで、ショパン、サン＝サーンス、ドビュッシー、ラヴェル、サティ、ヴェルレーヌなど、目まぐるしく変わるステージでの演目は、どれも情熱的かつ洗練された技巧の限りをつくしていました。私は眩かすにはおられませんでした。「これはまさにパリだ！」、「ここには優しきフランスがある」、あるいはまた「何とすばらしい旅だろう」と。(オリヴィエ・ジャメ)

22 juin 2019 : A l'occasion du vingt-cinquième anniversaire de l'AFJN, si fascinante plongée au Community Center d'Ikoma dans une magnifique rétrospective musicale, poétique et culturelle éclectique en France, depuis l'époque de la Renaissance jusqu'à la Chanson en passant par Chopin, Saint-Saëns, Debussy, Ravel, Satie, Verlaine, sous différentes formes, interprétations toutes aussi passionnées et d'excellente facture ! Je ne cessais de murmurer en moi-même : « Ça, c'est Paris ! », ou : « Oh, France la Douce ! » ou bien encore : « Quel beau voyage ! » (Olivier Jamet)



Merci à tous ! Bravo ! Nara-Nichifutsu !!

奈良日仏協会創立 25 周年おめでとうございます。そのお祝いとしての「フランスの音楽と文化祭」で、フィナーレにシャンソンを歌わせて頂いたことは誠に光栄でしたが、同時に多大なプレッシャーも感じておりました…。開始よりハイレベルなプログラムが続き、お客様の期待度もどんどん膨らんでいくのが舞台の袖からも伺えました。2 部も後半に入り、ステージの熱量もピークに達した頃、『パリの空の下』『ハナミズキ』『愛の讃歌』の 3 曲を歌わせて頂きまし

た。歌い終わった瞬間、会場のあちらこちらから「ブラヴォー」という歓声が上がり、「トリ」の役割を何とか果たせた喜びと安堵で胸が一杯になりました。終演後、お客様方から身に余るご感想の言葉を頂戴しましたが、何より「文化祭」を成功裡に終えられたことを心底嬉しく思っております。最後になりましたが、三野会長をはじめ『Je te veux』をご一緒させて頂いた坂本成彦様、初めての伴奏役で私を支えて下さった三木康子様、スタッフの方々、そしてお越し頂いた皆様に心よりお礼申し上げます。Merci à tous ! Bravo ! Nara-Nichifutsu !!(梨里香、中辻純子)

舞台の袖から

今回、私の役割は、三木正義監事の指揮下で、舞台の袖にいて出演者をステージに送り出し、演奏を終えた方を迎えることだった。演奏者が引き返してくるのを扉の隙間から見ながら、タイミングを計って扉を開く。この繰り返し。リハーサルの成果だろう。本番はスムーズに行われたはずである。最後のステージ、梨里香さんと三木康子さん(ピアノ)による「愛の讃歌」の終わりに、私は、緩やかに緞帳が下りていく美しい余韻の中にいた。(野島正興)

会員が主役の文化祭

奈良日仏 25 周年記念文化祭は、内容のある知的水準の高い催しだった。この種の催しは、来賓の挨拶に始まり、一部会員の披露宴になりがちなものだが、三野会長の挨拶にあったように、登壇者全員が会員のみ、プロ/アマを問わず会員の一人として参加という、会員が主役の企画であったのが、印象的であった。その趣旨が各ステージに貫かれていたこと、また、講演と演奏という構成、及び、各ステージのスムーズな交代など、興味の尽きない、どのステージも楽しめる内容であった。(竹本寿史)

芸術の国フランスを実感

前半はフランス史を紐解きながら聴きごたえ、見ごたえのあるステージを楽しめました。特に、音楽・絵画・文学を関連付けて紹介されたことは素晴らしい試みだったと思います。芸術の各分野が切り離すことのできない総合的なものだということに納得するとともに、やはりフランスは芸術の国なのだと実感できました。そして後半は和気藹々とした雰囲気の中、テーブルを囲んでの皆様とおしゃべりが楽しかったです。私のテーブルにはスタンダールの研究者やブルーストがお好きな方、バイオリニストなどがおられ、皆様から興味深いお話が聞けました。久しぶりにフランスにどっぷり浸れた初夏の午後でした。(辻みち代)



パーティー会場風景

「フランスの音楽と文化祭」に参加して

演奏有り、歌、美術、映像、朗読、文学講義も有り、なんと贅沢で楽しい 2 時間半を過ごしたのか。出演された方たちの素晴らしいパフォーマンスを大いに楽しみ、奈良日仏協会に集うメンバーの多様さと多才さに、初めて参加して、圧倒されました。企画、運営された実行委員会の方々、スタッフの皆さんありがとう。最後に一言、祝賀パーティーでいただいた Rothschild の赤ワイン、美味しかった。(白鳥保二)



受付風景

会員である幸せ

奈良日仏協会創立 25 周年記念としてフランス音楽と文化の催しがありました。第一部はコンサートで、私の好きなドビュッシー、ラヴェル、サン=サーンスなどが多彩な形で演じられましたが、驚いたのはこれらがすべて日仏協会の会員による演出だったことです。その後第二部は立食パーティーで、素晴らしい料理をいただいている合間に参加者の自己紹介がなされ、そこには数学者あり、フランス文学の大御所あり、ドイツ語の通訳ガイドあり、フランス料理の先生ありと、やはり日仏協会はすごい人材の集まりだということに感心した次第です。単なる主婦の私には少し

敷居の高い会ですが、フランスが好きなら誰でも会員になれるということで、会の片隅に名が残っているのがとても幸せな気分でした。(小寺順子)

付記:今回は、さまざまな方のご協力をいただきました。寄稿者ならびに文中にお名前が出ていない方では、フランス菓子を提供して下さった柳谷安以子さん、プログラム作成に協力して下さった知念宏司さん、ステージ進行をご担当いただいた三木正義さん、受付をご担当いただいた井田真弓さん、今西絵美さん、藪田章恵さん、長谷川明子さん、森井桂子さん。皆さんありがとうございました。(杉谷健治)